

第3 家計調査の貯蓄・負債編の見方

ここでは主に農林漁家世帯を含む結果を用いて説明します。

二人以上の各世帯について、調査開始後3か月目の1日現在の保有額を調査しています

貯蓄・負債の保有状況などについては、二人以上の世帯を対象に調査開始（家計簿を記入開始）後3か月目の1日現在で貯蓄等調査票により調査を行います。

家計調査の調査世帯は、1つの世帯を6か月間調査し、毎月6分の1の世帯が交替することになっていますので、貯蓄等調査表も、毎月6分の1の世帯が記入することになります。集計においては、1つの世帯の貯蓄及び負債額は6か月間大きく変化しないものとみなし、1つの調査世帯に6か月間同じ貯蓄等調査票のデータ（3か月目の1日現在で調査された。）が用いられ、四半期ごとに公表が行われます。

貯蓄・負債編には、貯蓄・負債現在高階級別の家計収支、世帯属性別や年間収入階級別の貯蓄・負債現在高など、種々の結果表が含まれています（付録9参照）。

なお、貯蓄・負債については、平成12年まで貯蓄動向調査結果として公表されていますが、これは年末時点の調査結果であるため、家計調査の年平均結果（各年の1月～12月に家計調査の対象となった世帯の貯蓄・負債額）との時系列比較はできません。

貯蓄には、生命保険や株式なども含まれています

貯蓄の範囲には、普通預金などいつでも手軽に引き出せる通貨性預貯金、定期預金やスーパー定期などの定期性

預貯金、掛け捨てを除く生命保険・積立型損害保険、株式や貸付信託、利付金融債、国債、公社債投資信託などの有価証券、さらに社内預金などの金融機関外への貯蓄が含まれます。

貯蓄・負債編の結果表の基本的な表章項目は、貯蓄現在高、負債現在高とその内訳になります。

<貯蓄>

貯蓄現在高... 郵便局・銀行・その他の金融機関への預貯金、生命保険の掛金、株式・債券・投資信託・金銭信託などの有価証券と社内預金などの金融機関外への貯蓄の合計現在高。

なお、貯蓄は世帯全体のものであり、世帯主の貯蓄だけでなく、その家族の分も含みます。また、個人営業世帯などの貯蓄には家計用と区分ができない事業用も含まれています。

金融機関..... 郵便局、銀行などへの預貯金のほか、生命保険、積立型損害保険に対する払込総額、有価証券の保有額の合計。

通貨性預貯金... 通常貯金、普通預金、当座預金、通知預金及び納税準備預金など。

定期性預貯金... 定額貯金、積立貯金、定期預金、定期積金など。

生命保険など... 民間の保険会社が販売している積立型の生命保険、損害保険(積立型)のほか、農業協同組合などが取り扱っている各種の共済、郵便局で取り扱っている簡易保険(保険商品、年金商品)など。

なお、掛け捨ての生命保険は貯蓄には含めません。

有価証券..... 株式(時価)、債券(額面)、株式投資信託(時価)、公社債投資信託(時価)、貸付信託(額面)、金銭信託(額面)など。

金融機関外..... 金融機関以外への貯蓄のことで、社内預金、勤め先の共済組合への預金など。

(再掲)年金型貯蓄... 郵便局で取り扱っている簡易保険のうち年金商品、信託銀行の個人年金信託、生命保険会社の個人年金保険、勤労

者財産形成年金貯蓄など。

ただし、公的年金や企業年金などは含めません。

(再掲)外貨預金・外債... 外貨による預金, 外貨建ての生命保険, 損害保険,
外国株式, 外貨建て債券・投資信託。

< 負 債 >

負債現在高... 郵便局, 銀行, 生命保険会社, 住宅金融公庫などの金融機関
からの借入金のほか, 勤め先の会社・共済組合, 親戚・知人から
などの金融機関外からの借入金の合計現在高。

住宅・土地のための負債... 住宅などの建物や土地のために借り入れた金
額

住宅・土地以外の負債... 生活又は事業に必要な資金などのために借り入
れた金額

公的金融機関... 郵便局, 住宅金融公庫, 国民生活金融公庫などの政府系
金融機関のほか, 都道府県や市町村の住宅供給公社などから
の借り入れ。

民間金融機関... 銀行, 信用金庫, 農業協同組合, 生命保険会社などから
の借り入れ。

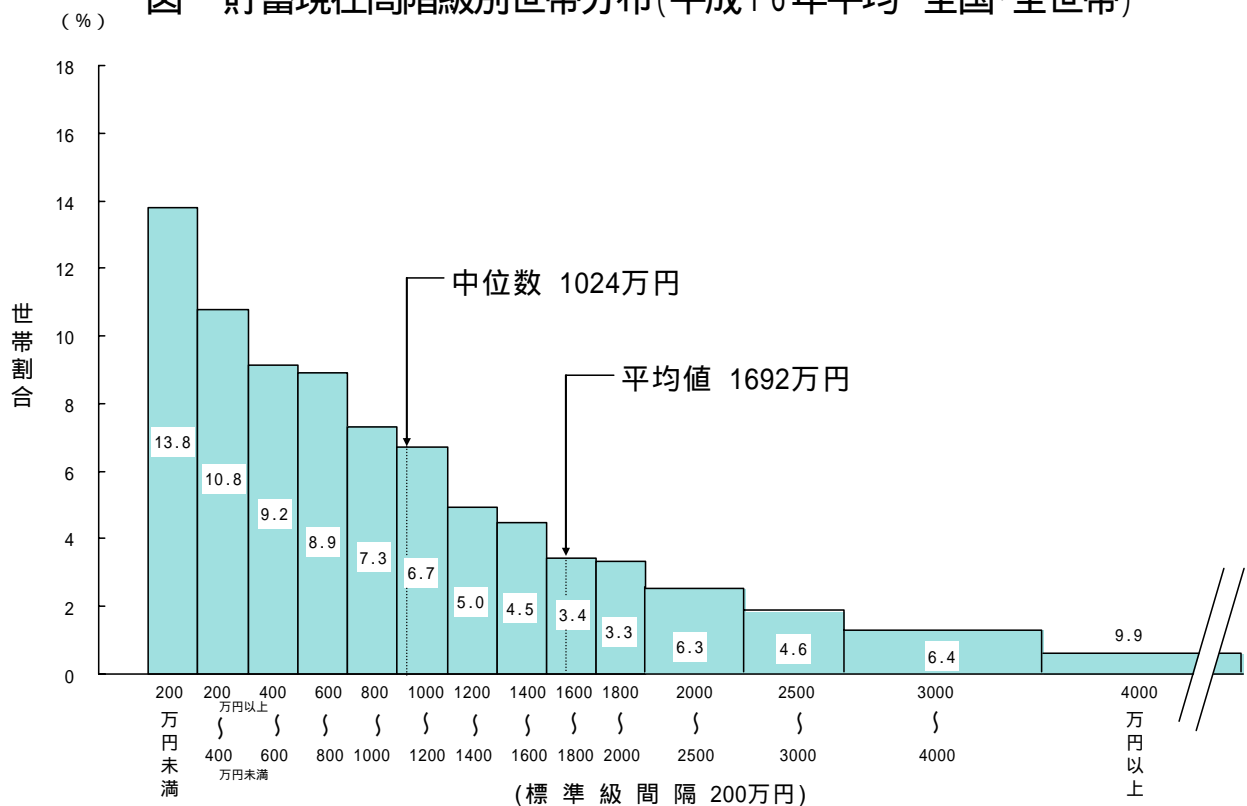
金融機関外..... 社内貸付, 勤め先の共済組合, サラリーマン金融, 質屋,
親戚・知人などからの借り入れ。

貯蓄，負債の結果は，平均値だけでなく世帯分布にも十分留意して利用する必要があります

貯蓄，負債の結果は貯蓄，負債のない世帯も含めたすべての世帯についての1世帯当たりの平均保有額で表されています。家計の現金実収入階級別の世帯分布は平均値よりやや低い方に偏った分布になっています(45ページ参照)が，世帯の貯蓄，負債現在高階級別の世帯分布はより一層低い方に偏った分布になっています。全国・全世帯の平成16年平均の貯蓄現在高についてみると，1世帯当たり平均の貯蓄現在高は1,692万円ですが，貯蓄現在高が200万円未満の世帯が全体の13.8%を占めて最も多くなっています。また，中位数(すべての世帯の真中に位置する世帯の貯蓄現在高)は1,024万円となっています。

貯蓄，負債の結果は貯蓄，負債のない世帯も含めたすべての世帯についての1世帯当たりの平均保有額で表されています。家計の現金実収入階級別の世帯分布は平均値よりやや低い方に偏った分布になっています(45ページ参照)が，世帯の貯蓄，負債現在高階級別の世帯分布はより一層低い方に偏った分布になっています。全国・全世帯の平成16年平均の貯蓄現在高についてみると，1世帯当たり平均の貯蓄現在高は1,692万円ですが，貯蓄現在高が200万円未満の世帯が全体の13.8%を占めて最も多くなっています。また，中位数(すべての世帯の真中に位置する世帯の貯蓄現在高)は1,024万円となっています。

図 貯蓄現在高階級別世帯分布(平成16年平均 全国・全世帯)



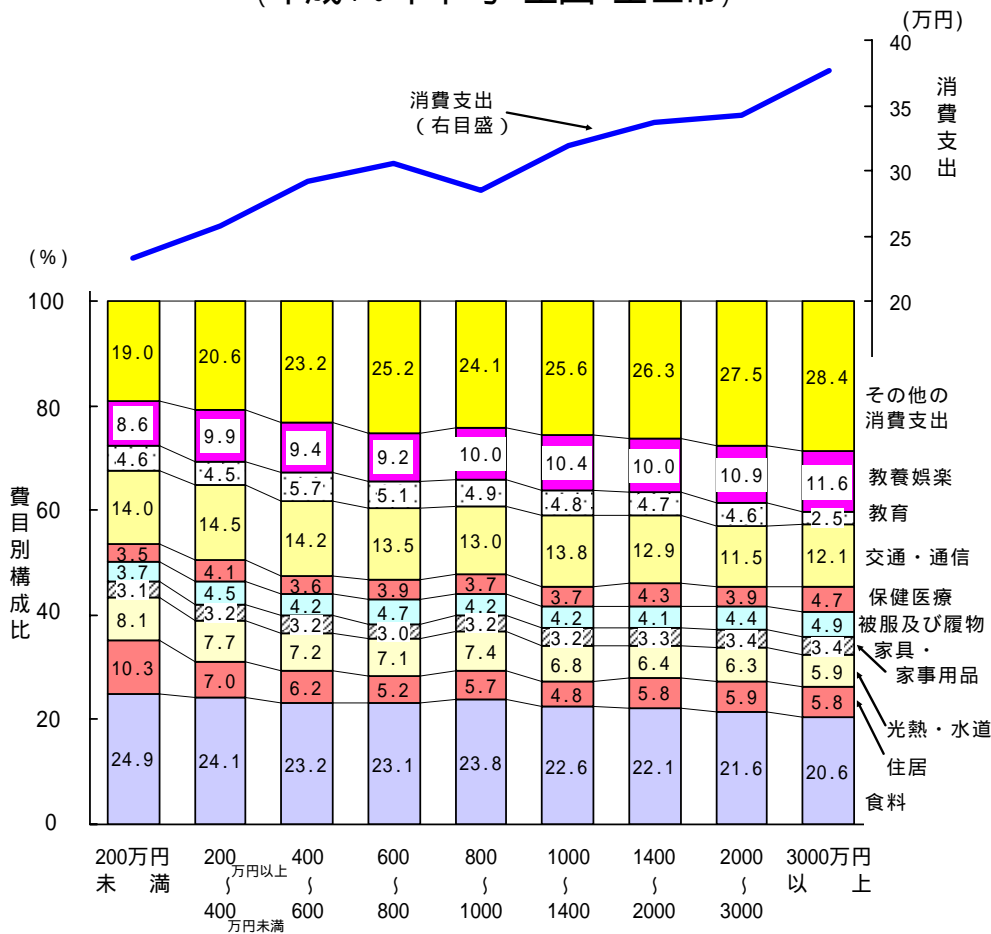
注) 農林漁家世帯を含む

**貯蓄，負債と家計収支との関係
もみることができます**

貯蓄・負債編には貯蓄・負債現在高階級別の家計収支を用途分類で集計した結果表もあり，金融資産残高と

家計収支の関係を分析できるようになっています。例えば，貯蓄現在高階級別に消費支出をみると，貯蓄が多くなるにしたがって消費支出も多くなっています。費目別の構成比をみると，食料や光熱・水道の割合は貯蓄が多くなるほどおおむね低くなっていますが，教養娯楽や「その他の消費支出」の割合は貯蓄が多くなるほどおおむね高くなっています。

図 貯蓄現在高階級別消費支出及び費目別構成比
(平成16年平均 全国・全世帯)



注) 農林漁家世帯を含む